

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 29 年 8 月号



【那賀振興局】8/24 モモの連作障害対策研修会を実施

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. コマツナのコナガ防除対策の検討	
2. 和歌山地方農村青年交流会（婚活イベント）を開催	
II 那賀振興局	3 - 7
1. クビアカツヤカミキリの注意喚起を実施	
2. 那賀地方いちご生産組合連合会が総会・研修会を開催	
3. 観音山フルーツガーデンで研修（紀の川市環境保全型農業グループ）	
4. 京都へ先進地研修（紀の川市環境保全型農業グループ）	
5. モモの連作障害対策研修会を実施	
6. 紀の川市4Hクラブが環境制御技術現地検討会を開催	
III 伊都振興局	8 - 10
1. 柿の魅力を消費者に発信！	
2. 新規就農者現地研修会を開催	
3. 農業技術講習会（野菜コース）の開催	
IV 有田振興局	11 - 12
1. 重点プロジェクト	
【有田みかん産地の活性化 ～モデル共選を育成、産地へ波及～】	
マル賢共選組合と山廻りを実施し、今年の作柄等を確認	
2. 有田地方環境保全型農業研究会と有田ネット21が研修会を開催！	
V 日高振興局	13 - 15
1. 重点プロジェクト	
【スターチスの新栽培技術・新品種の導入による産地強化】	
スターチス電照栽培技術研修会を開催	
2. 御坊市4Hクラブが夏の信州で研修を実施	
3. 平成29年度「農トレ！ひだか」第2回セミナーを開催	
4. 日高川町農業士会が県外研修を実施	

Ⅵ 西牟婁振興局	16-17
1. 田辺市上芳養でサルの囲いわなを設置	
2. 第26回SUN・燦紀南農業者の集いを開催	
Ⅶ 東牟婁振興局	18-19
1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】 三津ノ地域活性化協議会等が青ネギ栽培講習会を開催	
2. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】 近大新宮中学校稲刈り体験を開催	
Ⅷ 農林大学校	20
1. 産官学連携プロジェクト！ローソンと協働で商品開発(第二報)	
Ⅸ 農林大学校 就農支援センター	21
1. 就農に関する「夜の相談会」を開催	

I 海草振興局

1. コマツナのコナガ防除対策の検討

8月29日、和歌山市河西地区のコマツナ栽培ハウスにおいて、防虫ネットによるコナガの物理的防除方法の検討をスタートさせた。

この取組は、農林水産業競争力アップ技術開発事業を活用し、農業試験場が中心となって、JAわかやま、農業水産振興課が連携して行うもので、目合い1ミリの防虫ネットをビニールハウスの四方（妻面、両サイド）に設置し、コナガの侵入防止効果を検討する。

ビニールハウスの四方には防虫ネットを設置しているものの、谷換気部分には設置していないことから、谷換気部分からのコナガの飛び込み状況や施設内部の温度変化、被害程度などの調査を進める予定。

背景としては、市内のコマツナ施設栽培において、コナガの薬剤抵抗性の発達により、今後、農薬による防除が難しくなっていくことへの懸念がある。

本事業では、市内地区別の防除対策を検討しており、河西地区では防虫ネット利用による物理的防除、同じく施設のコマツナ栽培が盛んな布引地区では交信攪乱用フェロモン剤による防除の検討が本年から始まっている。

両地区においては、露地におけるコナガの発生消長なども調べており、得られた結果を防除対策につなげていく予定。



コナガの施設内への飛び込みを確認するため、粘着板を設置



調査用フェロモントラップと温度計を設置するJA営農指導員と普及指導員

2. 和歌山地方農村青年交流会（婚活イベント）を開催

7月30日に和歌山地方農村青年交流促進協議会（太田克弘会長）は、農業後継者13名と女性14名でブルーベリー収穫体験等の交流会（婚活イベント）を実施した。

この交流会は、農業後継者と農業に興味のある女性が交流する婚活を兼ねたイベントで、地域の農産物や伝統文化に関する体験交流を通じて、地域の魅力や農業・農村生活に対する理解と関心を深めてもらうことを目的としている。

今回は海南市において、ブルーベリー収穫体験、酒蔵見学、BBQを実施。ブルーベリー収穫体験では、自己紹介タイムで和んだ後、参加者を4チームに分け、自分たちの感覚で収穫量を1kgにするゲーム式の収穫体験を行った。参加女性からは、「ブルーベリーにも色々な品種があることを初めて知った」「樹によって味が異なっていた」「他の作物の収穫も体験したい」などの声があり、体験を通して農業により興味を持ってもらえたようだった。

地元の農産物を使ったBBQでは、参加者全員が和気あいあいと交流し、婚活イベントとして告白タイムも実施した。その結果、4組のカップルが誕生し、参加者からは「また参加したい」等の声もあがった。

本協議会では、今後もより農業を知ってもらえるよう交流会を企画し、人と人とのつながりを深め、後継者育成にもつながるよう取り組んでいきたいと考えている。



ブルーベリー収穫体験



バーベキューのスタート

Ⅱ 那賀振興局

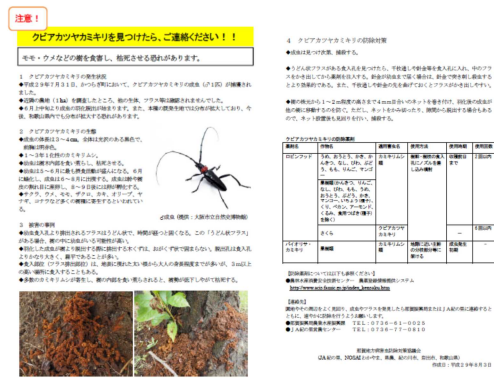
1. クビアカツヤカミキリの注意喚起を実施

那賀地域病害虫防除協議会（会長 下田和敬二）※では、クビアカツヤカミキリが、7月31日にかつらぎ町で発見されたことを受け、8月上旬に注意喚起及び情報提供を呼びかけるチラシを配布した。

チラシはJA紀の里の広報誌に折り込み、約1万1千部を組合員に配布したほか、生産者が集まる研修会等において振興局から配布と注意喚起を行った。

クビアカツヤカミキリは、管内の主要品目であるモモをはじめ、ウメやスモモ等を加害するため、生息範囲が広がると農作物に大きな被害を招く恐れがある。振興局では、クビアカツヤカミキリのまん延を防止するため、関係機関と協力しながら早期発見・対策の啓発を行っていく。

※ JA紀の里、NOSAIわかやま、和歌山県農、紀の川市、岩出市、振興局等県関係機関で構成



注意喚起及び情報提供を呼びかけるチラシ



普及指導員によるクビアカツヤカミキリの注意喚起の様子

2. 那賀地方いちご生産組合連合会が総会・研修会を開催

8月8日、那賀振興局で平成29年度那賀地方いちご生産組合連合会（会長 藤本智久）が総会及び研修会を開催し、会員ら18名が出席した。

研修会では、農業試験場栽培部 東主任研究員から「まりひめ」高設栽培における炭酸ガス施用効果について講演があった。和歌山県育成品種の「まりひめ」は、海草以南で栽培されているイチゴのほとんどを占める品種であり、高品質化には炭酸ガス施用と摘果が鍵である。また、パナソニックライティングデバイス（株）デバイス事業推進部八谷佳明主幹から、紫外線（UV-B）照射によるうどんこ病の効果的な防除方法について講演があり、UV-Bの導入方法、導入事例等についての説明を受けた。

最後に農業水産振興課から、花芽分化促進技術「間欠冷蔵処理」等の昨年度の調査結果と平成29年度のいちご優良苗注文状況について説明を行った。



炭酸ガス施用効果の説明を聞く生産者

3. 観音山フルーツガーデンで研修（紀の川市環境保全型農業グループ）

紀の川市環境保全型農業グループ（会長 畑敏之）は、8月9日に地元の優良生産法人である観音山フルーツガーデン（有限会社柑香園、会長 児玉典男）において研修会を行い、会員10名が参加した。

気象条件や環境が同じ地元の優良農家からは学べるのではないかと、同グループでは2年前から現地研修会を始めた。

研修会では児玉典男会長から自社の取り組みについて説明を受けた。ここでは、果実の生産、加工及び販売に取り組んでおり、自社または契約農家から出荷された果実を加工し、付加価値をつけて生果と共にインターネットやデパート等で販売している。また、ミカンは樹ごとに果実を試食してから収穫し、味が落ちないようにすべて手選果で行っている等こだわりが多く、おいしい果物を消費者へ届けるために手間をかけている。

同社の販売方法や価格などを聞いた会員からは「高価格で売りたいがどうしたらいいのかわからない」など販売に関する質問が多かった。

次回は11月頃、管内の優良農家で現地研修会を行う予定である。



児玉会長の話を熱心に聞く会員ら



試食させて頂いた加工品

4. 京都へ先進地研修（紀の川市環境保全型農業グループ）

8月23日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長 畑敏之）の会員14名が、先進地研修として京都のじねんと市場、森田農園及び長澤農園を訪れた。じねんと市場では、同市場での取り組み内容について店長から説明を受けた。出荷手数料は20%と京都で一番高いが、売れ残りは隣接している食堂で利用されたり、翌日に持ち越されるため、ロスがほとんど発生しない。また、高速道路の入り口が近いことや、京都には直売所が少ないことなどから、売上は年々上昇しているとのことであった。和歌山県からは桃とミカンを仕入れているということもあり、会員らは出荷のことや売れ残りの農産物のこと等を次々と質問していた。

森田農園は環境保全型農業を実践している野菜農家で、園主から経営内容について説明を受けた。堆肥は自家製で、神社の落ち葉やそば殻を利用している。また、近年園地の周りに住宅が増えたので、収穫物をおすそ分けするなど近隣住民とうまく付き合っているとのことであった。また、新しい加工品を開発した際にはメディアを活用し、宣伝するとのことであった。会員からは園主の説明が分かりやすく同じように取り組んでみたいとの意見が上がった。

長澤農園は有機農業を実践しており、園地の見学と園主の長澤源一氏から経営内容について説明を受けた。家族経営では栽培園地60～80aが妥当であり、それ以上になると経費がかかるため、面積は増やさずに単価を上げるべきであるとの話だった。長澤農園ではナスを600円/kgで売っており、高く買ってもらえるところと取引をしているこのことであった。

会員らは帰りのバスで、見学した園地と自家農園とを比較して意見交換を行っていた。農業水産振興課では、会員らの経営や栽培の参考となる研修会を今後も開催していく予定である。



じねんと市場店長からの説明



森田農園の見学



長澤農園の園地見学と園主からの説明

5. モモの連作障害対策研修会を実施

振興局とJA紀の里は、8月24日にモモの連作障害対策研修会を開催し、生産者ら23名が出席した。

今年度に入り、胴枯れ病などが原因と思われるモモの枯死の相談が数件あった。枯死したモモについては改植を行う必要がある。一方、モモは連作障害を起こしやすいことから、今回、連作障害対策の研修会を開催することとなった。

研修会では、講師にかき・もも研究所 和中主任研究員を招き、エタノールと活性炭を用いた連作障害軽減技術の実演を行った。具体的には、エタノールにより土壌を還元消毒し、活性炭を混和することでいや地物質の吸着を狙う技術である。生産者からは、「片方の資材だけでも効果はあるのか」「焼炭でも良いのか」「費用はどれくらいかかるのか」など、熱心な質問が多数あった。振興局では、研修会等を通じ、モモの生産安定に向けた取組を行っていく。



設置方法について説明



実際の設置風景

6. 紀の川市4Hクラブが環境制御技術現地検討会を開催

紀の川市4Hクラブ(会長 大西清悟)は、8月29日に環境制御技術現地検討会を開催し、クラブ員ら9名が出席した。

現地検討会は、環境制御技術勉強会(4月開催)で製作した機器を、実際に設置した同クラブ員の井上氏の圃場で行った。

井上氏は、今まで灌水作業に1時間程度を要していたが、機器を設置することで、作業を自動化することができた。現在のところ温度や湿度、二酸化炭素濃度等を測定できるセンサーはまだ設置していないため、今後は、センサーを設置し、炭酸ガス施用など新たな技術を導入することが目標だ。また、井上氏からは、実際の運用にあたっては機器に不都合があったときにすぐに対応できるようバックアップを準備しておくことが重要と説明があった。参加したクラブ員からは、設置や運用方法について熱心な質問があった。

機器を製作したものの、農作業等の都合によりまだ設置できていないクラブ員もいるため、支援を継続するとともに、より高度な環境制御を行えるよう研修会等を引き続き開催していきたい。



機器設置状況等について説明

Ⅲ 伊都振興局

1. 柿の魅力を消費者に発信！

8月29日、農業水産振興課は橋本市保健福祉センターにおいて、伊都地方農業振興協議会（会長 井本泰造）および伊都地方生活研究グループ連絡協議会（会長 小西教子）との共催で、『柿の魅力発信フェア』を開催した。このフェアは、果物の魅力と、全国一の生産量を誇る伊都地方特産の柿について品種や栽培、料理方法、加工品等を地域住民に紹介して今後の食生活に活かすとともに、柿に親しむ機会を持つことにより、食育の推進並びに地元農業への理解と産地振興を図ることを目的として開催した。

初めに普及指導員から伊都地方の柿栽培について話題提供を行った後、国際フルーツ協会の中野瑞樹代表から「あなたの知らないフルーツの世界 2800日 フルーツ物語」と題して講演が行われた。中野代表は、フルーツは糖分を含むことから太りやすい等の誤解を解くため、自ら実践して7年以上フルーツのみを摂取しており、取組のきっかけやフルーツの効用等について説明された。参加者は定員を大きく上回る約140名で、「とても楽しい講演だった」「あっという間とを感じるほどで、こんな講演ははじめて」と大盛況であった。

併せて、petit-smileの新谷睦子氏によるフルーツカッティングや、伊都地方生活研究グループ連絡協議会による柿料理（柿カレー、柿の包み揚げ、柿と野菜のサラダ、柿ミルク）の試食提供が催され、参加者はフルーツの見た目や味を楽しんでいた。



中野瑞樹代表による講演



満席の会場



新谷睦子氏によるフルーツカッティング



試食した柿料理

2. 新規就農者現地研修会を開催

8月23日、農業水産振興課はJA紀北かわかみかつらぎ支店大研修室において新規就農者現地研修会を開催した。市町を越えて若手農業者の交流のきっかけになるよう企画・開催したところ新規就農者11名が参加した。

研修会では、普及指導員から防除の考え方や殺菌剤・殺虫剤の作用機構等について講義を行った後、元指導農業士の山根木弘修氏の園地を訪問した。

山根木氏は柿とカンキツの複合経営を行っており、省力化・軽作業化のための設備投資や販路開拓による収益の安定化に取り組んでいる。まず、山根木氏から直売所出荷に欠かせない選果機や商品貯蔵用の冷蔵庫、省力化のための園内道や農薬散布施設をみせていただいた後、JA紀北かわかみかつらぎ支店に場所を移し、就農当時の苦労話や直売所の活用、雇用の確保について講演が行われた。参加者からは「人手不足のため雇を考えているが雇用を始めた時はどうしたのか」など質問があった。

最後に、参加者同士の交流を深めるため意見交換を行ったところ、営農上の悩みや興味を持っていることなど様々な意見がだされた。

当課は、今後も若手農業者の技術向上のため研修を行うとともに、交流を支援していく。



園内道を視察



グループに分かれて意見交換

3. 農業技術講習会（野菜コース）の開催

8月9日、農業水産振興課は振興局3階大会議室において農業技術講習会（野菜コース）を開催し、22名が受講した。

野菜コースは、毎年人気が高く、今年は35名の受講申し込みがあり、これまで4月17日、7月18日の2回実施してきており、今回の3回目で最終の講習会となる。

ここでは普及指導員が秋冬野菜（玉ねぎ、ダイコン、ジャガイモ、サトイモ、エンドウ）の栽培管理について説明した。

受講者からは、「今まで自己流で栽培していたが、基本的なことが理解でき良かった」「資料を読み返して、実際の栽培に活かしたい」などの感想が寄せられた。

当課は、今後も野菜栽培指導を通じて野菜産地の振興に取り組む。



講習会の様子

IV 有田振興局

1. 重点プロジェクト

【有田みかん産地の活性化 ～モデル共選を育成、産地へ波及～】

マル賢共選組合と山廻りを実施し、今年の作柄等を確認

8月21日にマル賢共選組合（永石睦巳組合長、構成員33戸）生産部と山廻り（出荷者の全園地巡回）を実施し、着果のほか摘果・除草等管理の状況を確認した。

また、午後からは生産部OBで構成する「13人委員会」が加わり、意見交換しながら同様に巡回し、組合の事務所で今後の検討等が行われた。

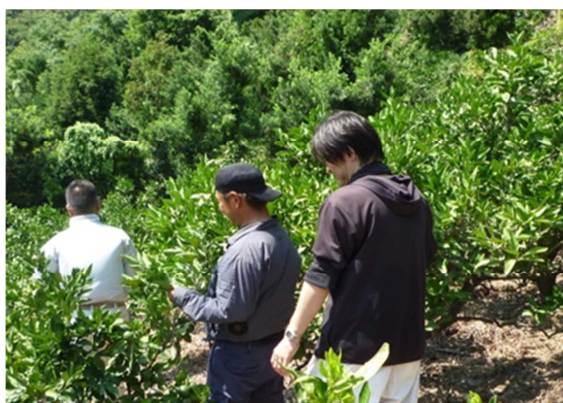
○結果の概要

- ・今年を着花が少なかったことから、生産量もかなり少なくなることが心配されたが、バラツキがあるものの、平年の8割程度の園地が多かった
- ・摘果、除草が不十分な園地が1～2割程度あり、管理の徹底を周知する
- ・肥大が進んでいるため、2Lの割合を少なくし品質を高めるよう、摘果等の作業を実施する

報告終了後、JA営農指導員を交え、今後の防除や浮き皮を軽減するためのジベレリンの使用について意見交換し、意識統一した。

また、農業水産振興課から、生産部に協力いただき継続して調査している「きゅうき」や管内の温州みかんの果実調査結果等について説明した。

今後も、高品質安定生産に一丸となって取り組んでいるマル賢共選組合生産部の活動を支援していく。



6班に別れ、全園地を巡回



結果をもとに意見交換して意識統一

2. 有田地方環境保全型農業研究会と有田ネット 21 が研修会を開催！

8月28日、果樹試験場にて、有田地方環境保全型農業研究会（会長 池田義行）及び有田ネット21（会長 岩倉正尚）が共催で研修会を開催し、両会員ら46名が参加した。

研修会では、国際フルーツ協会の中野瑞樹氏より「環境と健康とフルーツ」と題した講演が行われた。フルーツの健康に良い食べ方や、含まれる栄養の特徴、フルーツの消費をどのように拡大するかなどについて会員らは熱心に聴講していた。

今後も、農業水産振興課では、当会への活動支援を行っていく。



講師の中野瑞樹氏

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【スターチスの新栽培技術・新品種の導入による産地強化】

スターチス電照栽培技術研修会を開催

8月3日、JA紀州がいなポートで、スターチス電照栽培技術研修会を開催した。この技術は、価格が高い冬場の切り花本数を2割以上増やす効果が期待でき、現地試験で効果を確認しながら普及に取り組んでいる。

研修会では、農研機構野菜花き研究部門の久松完上級研究員が「花き生産における情報としての光の活用」について講演し、植物がどのように光を感じ、成長に活かしているかなど電照栽培の基礎について説明を行った。続いて、暖地園芸センターの古屋主査研究員から電照栽培技術の研究成果、農業水産振興課の伊藤普及指導員から電照栽培技術の現地試験結果を説明した。

その後の意見交換では、「電照することによりスターチスの施設に隣接するほ場の他作物に影響はないか」などの意見が出され、質疑応答が行われた。



研修会には、生産者をはじめ30名が出席



意見交換で質問する生産者

2. 御坊市4Hクラブが夏の信州で研修を実施

御坊市4Hクラブ（中野光勝会長）の会員4名は、8月7～8日の日程で長野県を中心に県外研修を実施した。メンバー全員がスターチスの切り花栽培を行っていることから、苗生産の現場と種苗メーカーの育種の現状を見学した。

はじめに訪ねた柳平園芸は、(株)ミヨシの「サンデーバイオレット」の育苗を受託しており、園主から生育の揃った良苗を育てるには、天候など日々の環境に応じた灌水が重要であると説明を受けた。スターチス類専門の種苗メーカーであるTSメリクロン(株)では、進藤俊英社長から、スターチスが仏花だけに限らず、いろいろな場面で使ってもらえるようにすることが花材としての価値の向上に繋がるとお話があった。また、「我々は育種で頑張るので、みなさんは生産面で頑張ってください」とエールが送られ、メンバーも品種に求める要望を述べるなど有意義な意見交換がなされた。

そのほか、JA信州諏訪管内のトルコギキョウ生産状況とJAみなみ信州の農産物直売所「りんごの里」を見学し、研修会を終えた。



スターチスの受託育苗を営む柳平園芸



T Sメリクロン(株)で意見交換

3. 平成 29 年度「農トレ！ひだか」第 2 回セミナーを開催

8月24日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（西山和克会長）と農業水産振興課の共催により、「農トレ！ひだか」第2回セミナーを開催した。「農トレ！ひだか」は、日高管内の4Hクラブ員をはじめとして、若手の農業者や管内で農業を始める予定の方等を対象とした研修会のことで、平成24年から始まり、今年度は3回の開催を予定している。

今回は、「和歌山県におけるGAPをめぐる情勢」をテーマとした講演会を印南町公民館で開催し、日高地方4Hクラブ員および若手の農業者、合わせて11名が参加した。

講演は当課の行森普及指導員が行った。内容は大きく分けて①GAPとは何かについての説明、②GAPをめぐる現在の情勢及び③和歌山県版GAPについてとし、スライドを使って説明した。

参加者からは、GAPを巡る現在の情勢や県版GAPの活用方法について質問があった。



「農トレ！ひだか」第2回セミナー



行森普及指導員による講演

4. 日高川町農業士会が県外研修を実施

日高川町農業士会（龍田雅人会長）は、8月30日に先進地研修を行った。

最初に訪問したJAならけんファーマーズマーケット「まほろばキッチン」（奈良県橿原市）は全国最大級の売り場面積を有する農産物直売所で、1,200名以上の方が出荷登録し、店内は農産物であふれていた。また産直レストランも併設し多くの買い物客で賑わっていた。

次にナント種苗宇陀育種研究農場を訪ねた。奈良県の種苗会社はスイカの育種が有名で県内7社で全国の約80%のシェアを占めている。ナント種苗もスイカの育種から始まり紅小玉を最初に育成したそうである。担当者の田中亮太氏から育成したスイカやメロン、ピーマン、ブロッコリーなどの新品種の説明やほ場で育種中の系統の説明を受けた。

当日は晴天で暑かったが、会員らは熱心に耳を傾け、有意義な研修となった。



まほろばキッチン



ナント種苗

VI 西牟婁振興局

1. 田辺市上芳養でサルの困いわなを設置

8月31日に田辺市上芳養の日向地区^{ひなた}において、有害獣の捕獲に取り組んでいる地元の若い農業者グループ「チームひなた（代表：岡本和宣 5名）」が、困いわなを設置した。

「チームひなた」では、狩猟免許を取得したメンバーが同地区の野生動物による農作物被害を減らそうと、ベテラン猟師からわなの仕掛け方などのノウハウを学び、イノシシやシカの捕獲活動をしている。今回はサルの被害を減らそうと、県が無償で貸与しているICTを活用した大型困いわなによる捕獲実証に取り組む。

当日、普及指導員が設置の手順やICTを活用したトリガー装置等について説明した後、応援に駆けつけたJA紀南生産販売委員会役員、JA紀南及び田辺市職員とともに皆で協力しながら約3時間かけて設置した。

サルの群れがよく出没するミカンの収穫時期を間近に控えたこの時期が、捕獲できる絶好の機会であることから、餌付けやセンサーカメラによる観察を入念に行い、捕獲に結びつける。当課では今後も「チームひなた」の活動を支援して行く。



困いわな設置の様子

2. 第26回SUN・燦紀南農業者の集いを開催

8月28日、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、「地域の未来につながる 新・農業創生」をテーマに、西牟婁地方の農業士会、4Hクラブ、生活研究グループ主催によるSUN・燦紀南農業者の集いが開催され、生産者や関係者約110名が出席した。

この集いは、西牟婁地方の農業者が地域の課題や農業農村の今後について検討・交流することにより、地域農業の発展、地域の活性化につなげることを目的に年1回開催され、今年で26回目となる。

研修会では、株式会社農業総合研究所 代表取締役社長 及川智正氏を講師に招き、「ビジネスとして魅力ある農産業の確立」と題して講演が行われた。

及川氏は、自らの就農や野菜販売等の経験を活かし、農産物の新たな流通システムを構築した農業ベンチャー初の上場企業創業者である。

生産者と都市部にある小売店を直接つなぎ、出荷拠点から翌日には希望する都市の売り場へ並べられるシステムの開発や、販売状況がわかるシステムの導入により、都市部消費者や生産者に大変喜ばれている。今後も、ITを活用した新しいことに挑戦していくとともに、魅力ある農産物ビジネスを展開していくとの話があった。

その他、農業共済の新システム「収入保険制度」の内容について和歌山県農業共済組合南部支所長原井敏伸氏から説明を受けた。



農産物の魅力について語る及川智正社長

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】

三津ノ地域活性化協議会等が青ネギ栽培講習会を開催

8月3日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）及びJAみくまの、農業水産振興課は、青ネギの試験栽培に取り組むため、（株）五條市青ネギ生産組合代表取締役の森本茂仁氏を講師に招き、JAみくまの熊野川営農センター及び育苗ハウスにおいて青ネギの栽培講習会を行った。

森本氏から、6次産業化による業務用青ネギの産地振興の取組について説明がなされた。その後、下阪会長から話があり、「今回の講習をとおして、栽培技術を学んでもらい、青ネギ栽培の普及が地域活性化の一助になればよい。」と述べられた。参加者からは「今、播種したらいつ収穫できるのか?」、「薬剤散布の時期は?」など質問が出た。

また、育苗ハウスにおいて、森本氏からセルトレイへの土の詰め方、土の鎮圧方法、播種方法や播種後の管理など実演を交えながら説明がなされた。参加者は播種機を用いての種まきについて「楽で効率がよい」など先進地での技術に興味津々で作業に取り組んだ。

今回、は種した葉ネギは10月頃に定植する予定である。



講習会



播種指導を受ける農家

2. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】

近大新宮中学校稲刈り体験を開催

8月28日、近大新宮中学校の1年生59名が、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）及びJAみくまの、農業水産振興課の指導の下、稲刈り体験を行った。

下阪会長から開会のあいさつがあり、「4月28日に皆さん自身が植えた稲を刈り取るということで愛情をもって刈ってもらいたい。」と話された。その後、普及指導員から、稲の刈り方、作業方法、機械等について説明を行った。

生徒たちは、協議会員から鎌の使い方を教えてもらいつつ、稲を刈ってコンバインによる脱穀を行った。はじめは鎌の使い方がわからず、稲刈りがなかなか進まなかったが、終わりのころには多くの生徒が手際よく刈れるようになった。また、コンバイン操作体験も行い、生徒の表情は真剣そのものであった。

その後、乾燥・粃摺り施設に移動して施設の見学をした。生徒たちからは「食卓にお米が並ぶまでにたくさんの工程があることに驚いた。」「お米に等級があるなんて知らなかった。」「山盛りに積もった粃殻は何に利用するのか。」など多くの意見や質問が相次いだ。今回、稲刈りした米は近大新宮中学校の文化祭で生徒たちが販売する予定である。



説明を受ける生徒たち



稲を運ぶ生徒たち

Ⅷ 農林大学校

1. 産官学連携プロジェクト！ローソンと協働で商品開発（第二報）

アグリビジネス学科では、6月から（株）ローソンと協働で商品開発に取り組んでおり、これまで3回の講義に続いて、8月にはおにぎり、スイーツを製造する中食産業部門の工場を視察し、商品ができるまでの一連の流れや製造現場における安全管理等について学んだ。

学生からは、「異物混入防止や交差汚染防止のため細心の注意が払われていることがわかった。」「ほとんど全てが機械化されているのかと思っていたが、多数の商品アイテムごとに機械を導入するのはコストがかかるということで、人間の手による作業が多いことにびっくりした。」という声が聞かれ、製造現場を実際に目にする事で、工程や安全管理方法等について、講義だけではわからないことを実感できた。

9月には、学生達が商品開発に携わった和歌山県産食材を使ったおにぎりとパッケージデザインを行った県産桃のピューレを使ったスイーツが近畿2府4県のローソンで販売される。



新商品を検討している様子



工場見学の様子



アグリビジネス学科の学生

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 就農に関する「夜の相談会」を開催

8月10日、就農支援センターにおいて、就農に興味がある方、就農方法について知りたいが昼間は忙しくて相談に行けない方や農業に興味のある子や孫がいる農家の方々を対象に、当センター初めての試みとして、夜間に就農相談会を開催した。

内容は、和歌山県農業や就農への道筋、就農事例についての紹介、意見交換会で、県内から11人の来場者があった。

参加のきっかけは、「市民農園で出来た野菜が美味しくて、職業にしたらもっと楽しいと思った」、「畑を管理してくれる人がいなくなった」、「会社に勤めていて農業はわからないが興味はある」等、様々だった。意見交換会では、ニンニクの栽培方法と収益性など営農に関する具体的な質問もあり、有意義な会になった。



夜の相談会の様子

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489